

阪神・淡路大震災から30年の神戸のまちづくり

神戸市建設局副局長 武田 史郎

2025年7月29日

関西道路研究会 第129回総会

目次

1. 阪神・淡路大震災の教訓

2. 来る災害への備え

3. 未来に向けたまちづくり

目次

1. 阪神・淡路大震災の教訓

2. 来る災害への備え

3. 未来に向けたまちづくり

1. 阪神・淡路大震災の教訓

阪神・淡路大震災の発生

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

- 発生日時 平成7年（1995年）1月17日
午前5時46分
- 震 源 淡路島(北緯34.36 東経135.02)
- 震源深さ 約16km
- 地震規模 マグニチュード7.3
- 最大震度 観測史上初の震度7



阪神・淡路大震災の被害状況(人的被害)

- 死亡者
総数 6,434 人 神戸市 4,571 人
※ 73%が家屋の倒壊などによる窒息・圧死
- 行方不明者
総数 3 人 神戸市 2 人
- 負傷者
総数 43,792 人 神戸市 14,678 人
- 避難人数
236,899 人（平成7年（1995年）1月24日）
- 避難所開設数
599 か所（平成7年（1995年）1月26日）

1. 阪神・淡路大震災の教訓

阪神・淡路大震災の被害状況(物的被害)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

■ 建築物等の被害

全壊 67,421 棟 半壊 55,145 棟

■ 火災による焼損

全焼 6,965 棟 半焼 80 棟

■ ライフラインの寸断

電気 市内 全域停止

ガス 市内 約8割停止

水道 市内 ほぼ全域停止

下水道 管渠・ポンプ場破損、
処理場の機能低下・機能停止



1. 阪神・淡路大震災の教訓

震災発生後の状況(神戸市役所)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



市役所2号館の被災状況（外観）

市役所2号館の被災状況（室内）



1. 阪神・淡路大震災の教訓

震災発生後の状況(災害対応)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



神戸市災害対策本部

停電の中、警戒体制の長田消防署



1. 阪神・淡路大震災の教訓

震災発生後の状況(救援物資拠点・東遊園地)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



救援物資の搬送

救援物資の配布状況



1. 阪神・淡路大震災の教訓

震災発生後の状況(断水)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



自衛隊による給水に並ぶ市民

運動場に設営された大テント浴場



1. 阪神・淡路大震災の教訓

震災発生後の状況(断水)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



地面に穴を掘って作成した簡易トイレ

流すことができなくなり使用禁止となったトイレ



1. 阪神・淡路大震災の教訓

震災発生後の状況(応急仮設住宅の建設)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

- 建設戸数 総数 32,346 戸 神戸市 29,178 戸
- 平成7年（1995年）1月20日着工、8月11日 **全戸完成**
- 平成11年（1999年）12月20日入居者ゼロに
➡ 仮設住宅での暮らしは **4年11か月で解消**



北区鹿の子台



港島1丁目（ポートアイランド）

1. 阪神・淡路大震災の教訓

震災復興事業(土地区画整理事業・市街地再開発事業)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



1. 阪神・淡路大震災の教訓

震災復興市街地再開発事業(新長田駅南地区)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



震災発生直後
平成7年（1995年）1月



震災発生10年後
平成17年（2005年）1月

震災復興市街地再開発事業(新長田駅南地区)

震災の発生から**わずか2か月後**の平成7年（1995年）3月17日、
神戸市は震災復興事業の都市計画決定を行った

【事業の目的】

- ◆被災利権者の早期生活再建
- ◆災害に強い安全・あんしんなまちづくり・都市機能の更新

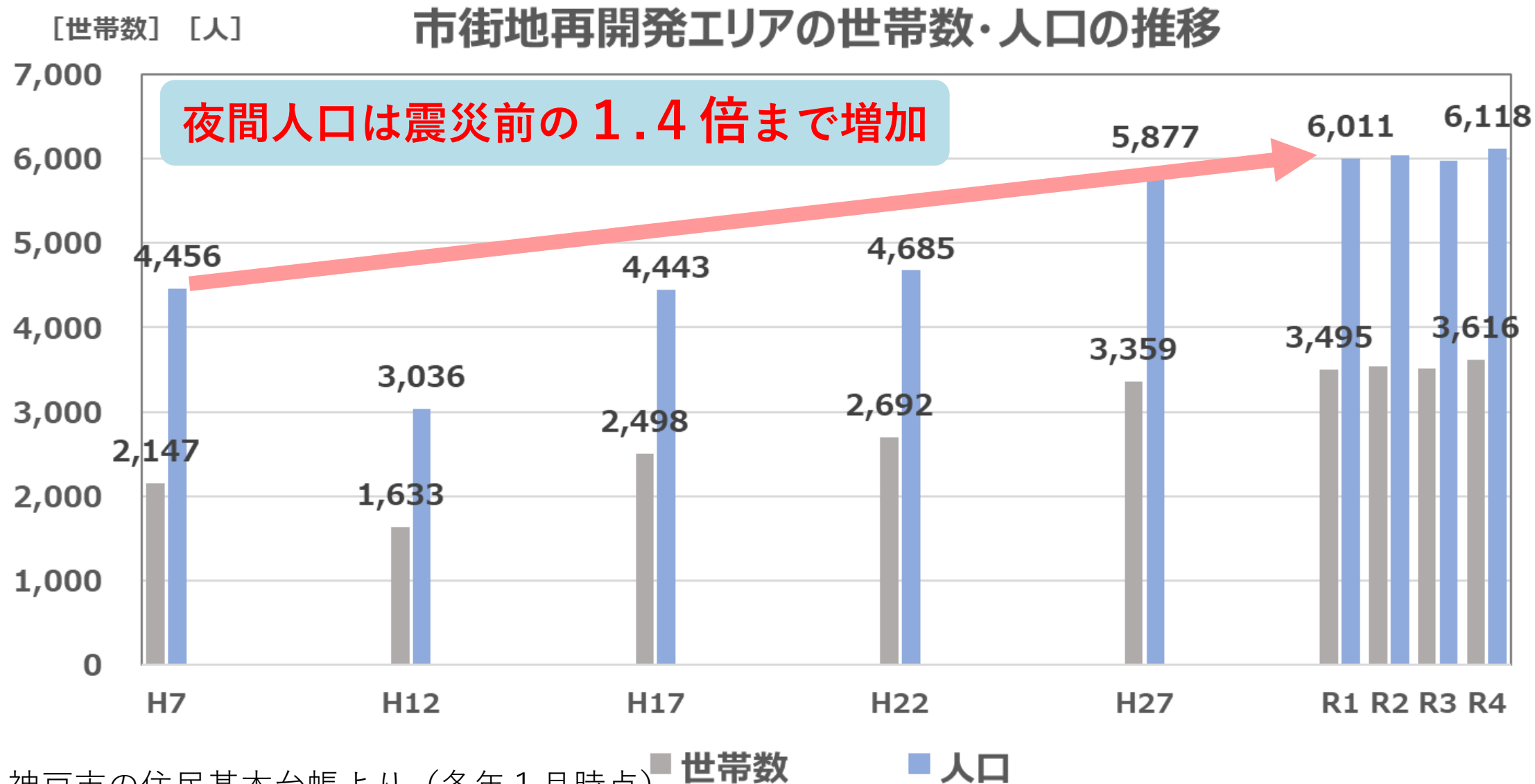
【事業の内容】

- ◆敷地を共有化し、高度利用することにより、公共施設用地を生み出す
- ◆従前権利者の利益は、原則として等価で新しい施設建築物の床に置き換えられる（権利床）
- ◆高度利用で新たに生み出された床（保留床）を処分し、事業費に充てる

1. 阪神・淡路大震災の教訓

震災復興市街地再開発事業(新長田駅南地区)

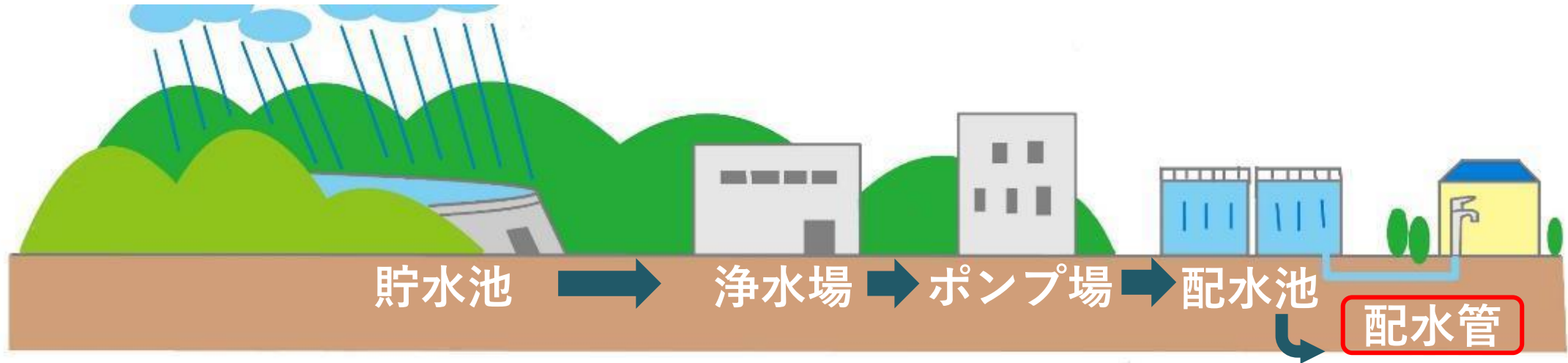
BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



資料：神戸市の住民基本台帳より（各年1月時点）

1. 阪神・淡路大震災の教訓 災害に強い水道づくり

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



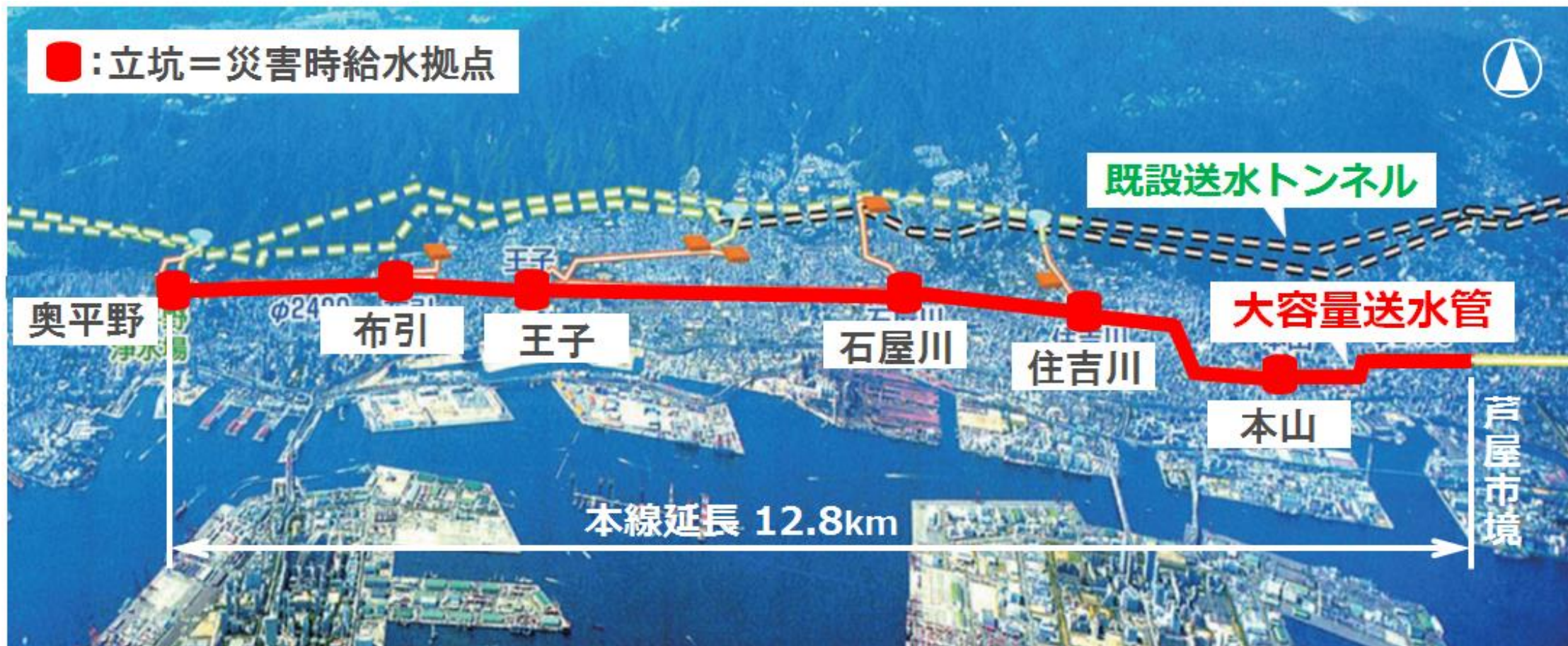
配水管の被害が大きく、
水道の復旧までに
最大10週間を要した



1. 阪神・淡路大震災の教訓 大容量送水管の整備

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

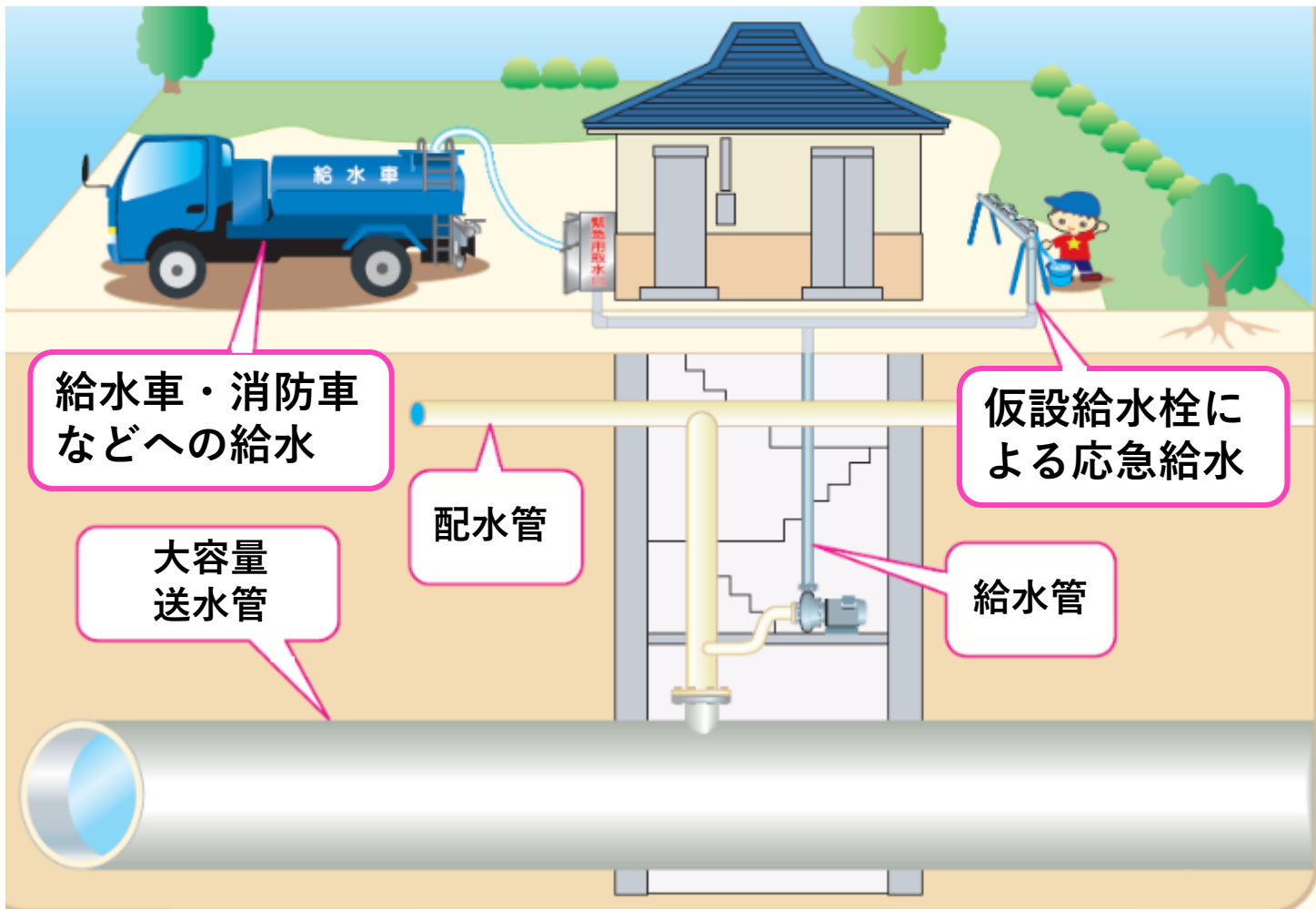
六甲山中を通る既設の送水トンネルとは別に、市街地の地下を通るルートを構築



平成8年（1996年）から整備し、平成28年（2016年）に完成

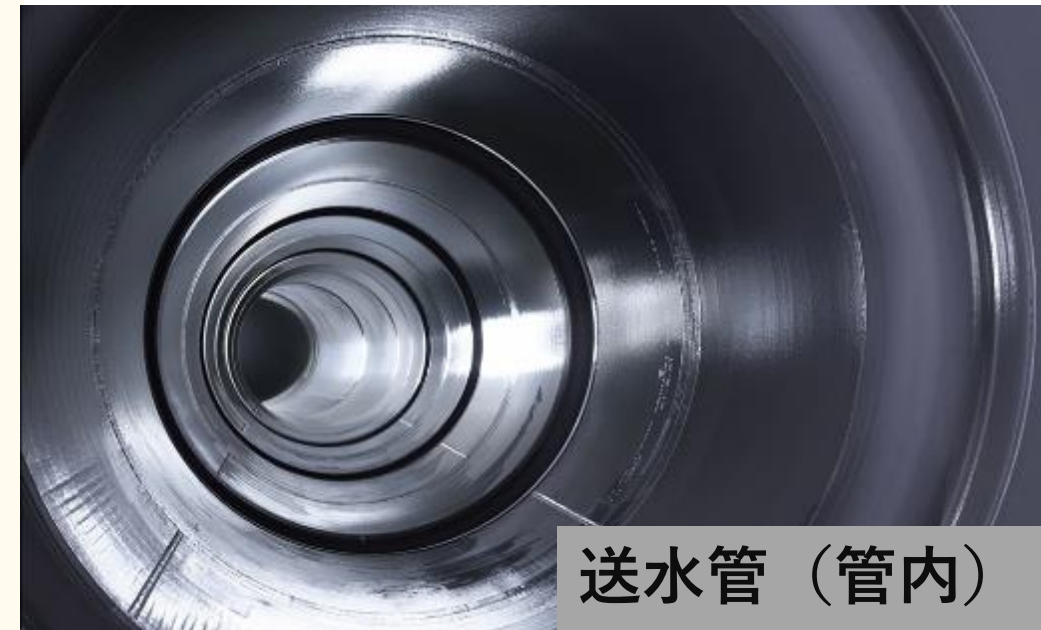
1. 阪神・淡路大震災の教訓 大容量送水管の整備

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



◀ 大容量送水管の仕組み

送水管としてだけでなく、災害時の
応急給水拠点としても機能



▲ 口径（直径）2.4 m

管内には全市民の約12日間分の水量
に相当する水を貯留することが可能 19

1. 阪神・淡路大震災の教訓

下水道ネットワークシステムの構築(平成23年4月完成)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

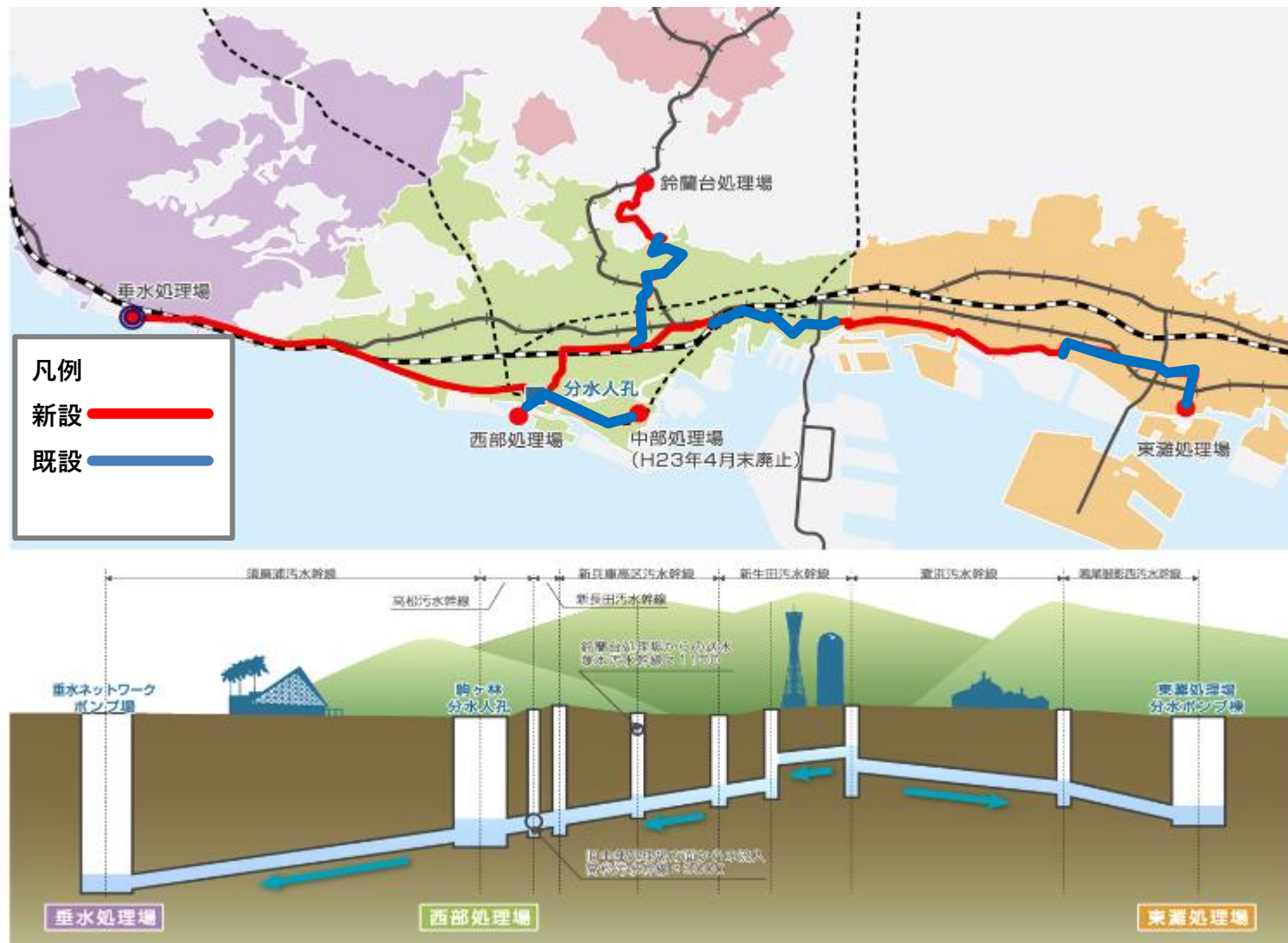
市内5か所の処理場を最大内径3m・最大深度約35mの下水管で接続



東灘処理場の被害（基礎杭の破壊）



東灘処理場の被害（水路の破壊）



目次

1. 阪神・淡路大震災の教訓

2. 来る災害への備え

3. 未来に向けたまちづくり

2. 来る災害への備え

神戸市の水害の歴史

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

阪神大水害 昭和13年(1938年) 7月

総雨量	4 6 2 m m
最大時間雨量	6 1 m m
死者・不明者	6 1 6 名



西日本豪雨 平成30年(2018年) 7月

総雨量	4 6 6 m m
最大時間雨量	3 9 m m
死者・不明者	0名 (軽症者1名)



灘区篠原台

2. 来る災害への備え 浸水対策(三宮南地区)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

平成16年（2006年）台風16、18、21、23号での被害状況



国道2号
海岸通5丁目付近

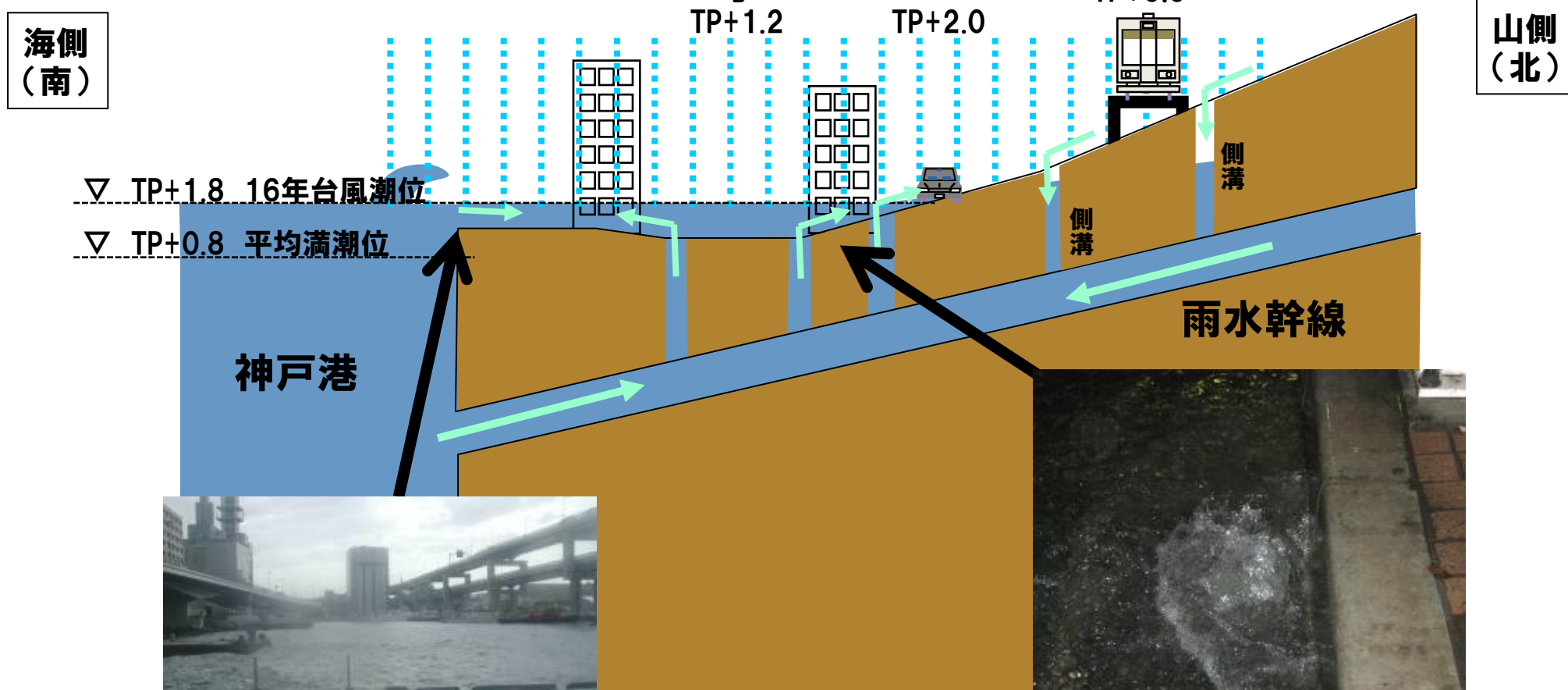


国道2号
メリケン波止場前 交差点

2. 来る災害への備え

浸水対策(浸水の仕組み)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



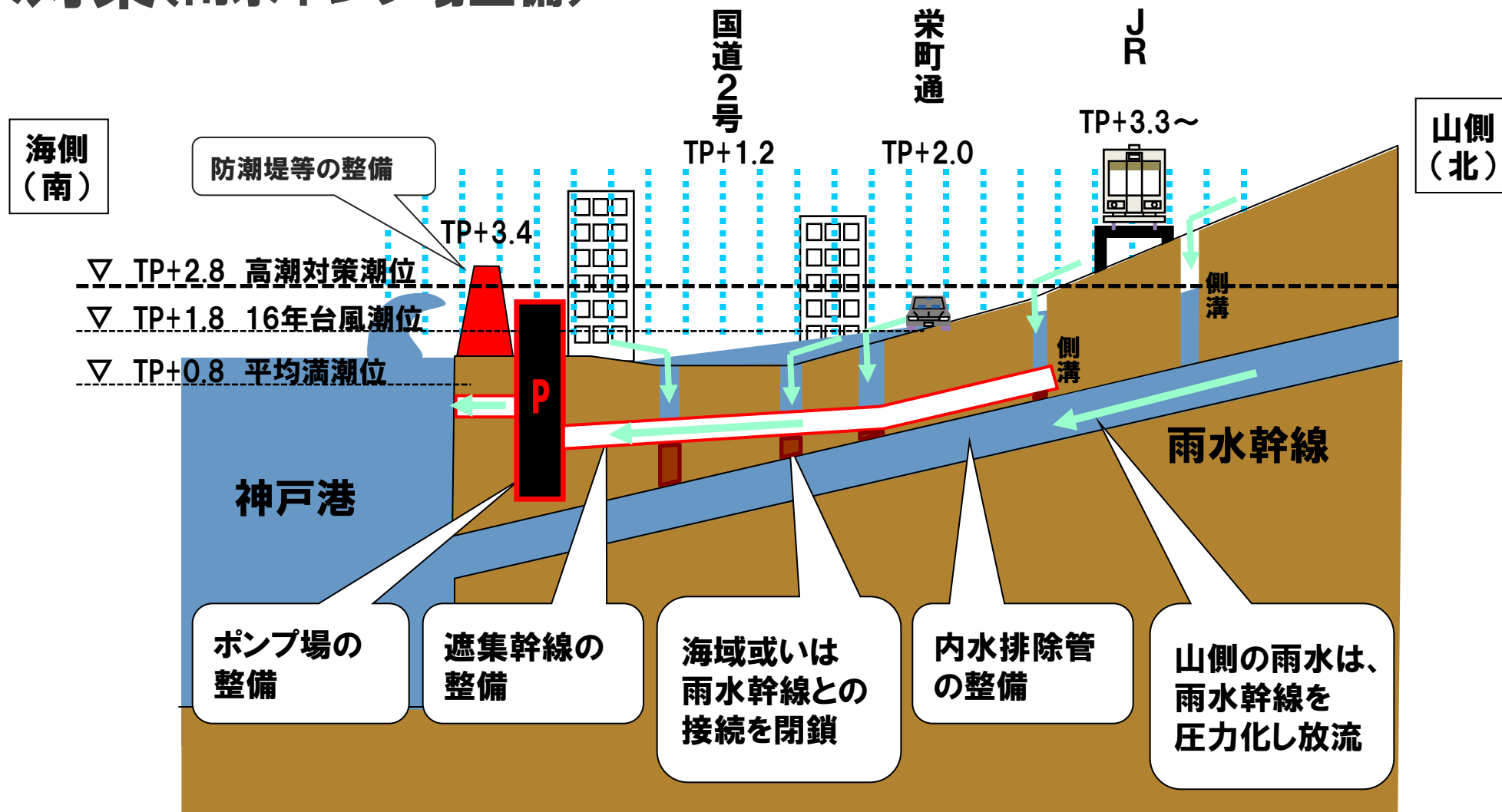
海水面が上昇し、
海水が流れ込む

海水が雨水幹線内を逆流し、
側溝から海水が噴き出す

2. 来る災害への備え

浸水対策(雨水ポンプ場整備)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



計画高潮位 (TP+2.8m)、10年確率降雨に対応

TP+2.8m = 神戸港の朔望平均満潮位 (TP+0.8m) + 最大潮位偏差 (2.0m)

2. 来る災害への備え

浸水対策(三宮南地区雨水ポンプ場整備)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



京橋ポンプ場

平成23年（2011年）供用開始

排水能力：毎秒13.6 m^3



中突堤ポンプ場

平成27年（2015年）供用開始

排水能力：毎秒18.6 m^3



小野浜ポンプ場

平成27年（2015年）供用開始

排水能力：毎秒14.3 m^3

2. 来る災害への備え 浸水対策(東川崎地区、臨海部)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

平成30年（2018年）9月

台風21号での被害状況



六甲アイランド



中央区東川崎町

2. 来る災害への備え

浸水対策(東川崎地区雨水ポンプ場整備)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



東川崎ポンプ場

令和7年（2025年）供用開始

排水能力：毎秒5.7 m^3

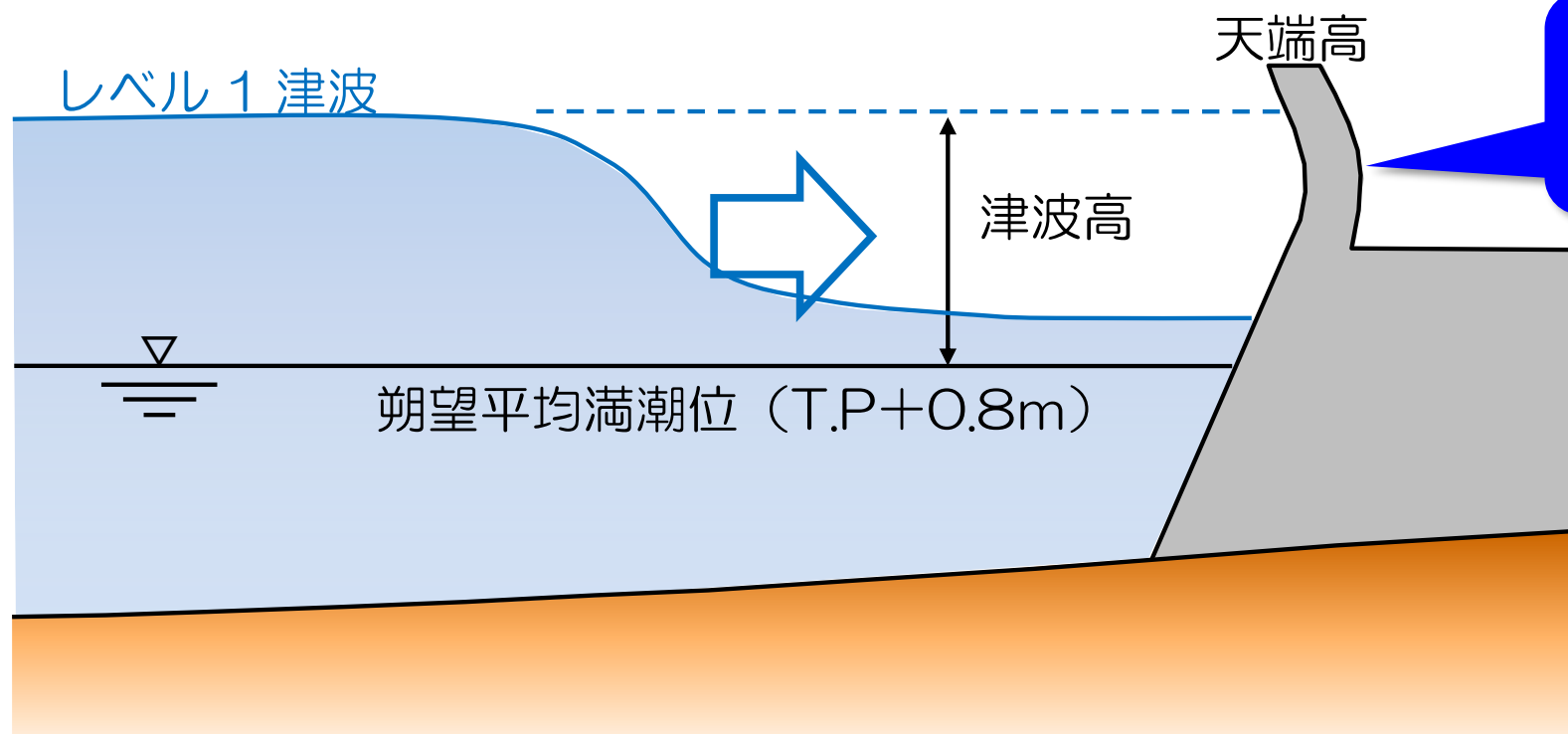
2. 来る災害への備え

南海トラフ地震への津波対策(ねばり強い構造の防潮堤)

レベル1津波

(概ね100年に一度程度の発生するマグニチュード8クラスの地震で発生する津波)

- 施設の整備による対応で、越流防止可能
- 高潮対策として平成27年度（2015年度）に完了



既存の防潮堤等で
津波は防御可能

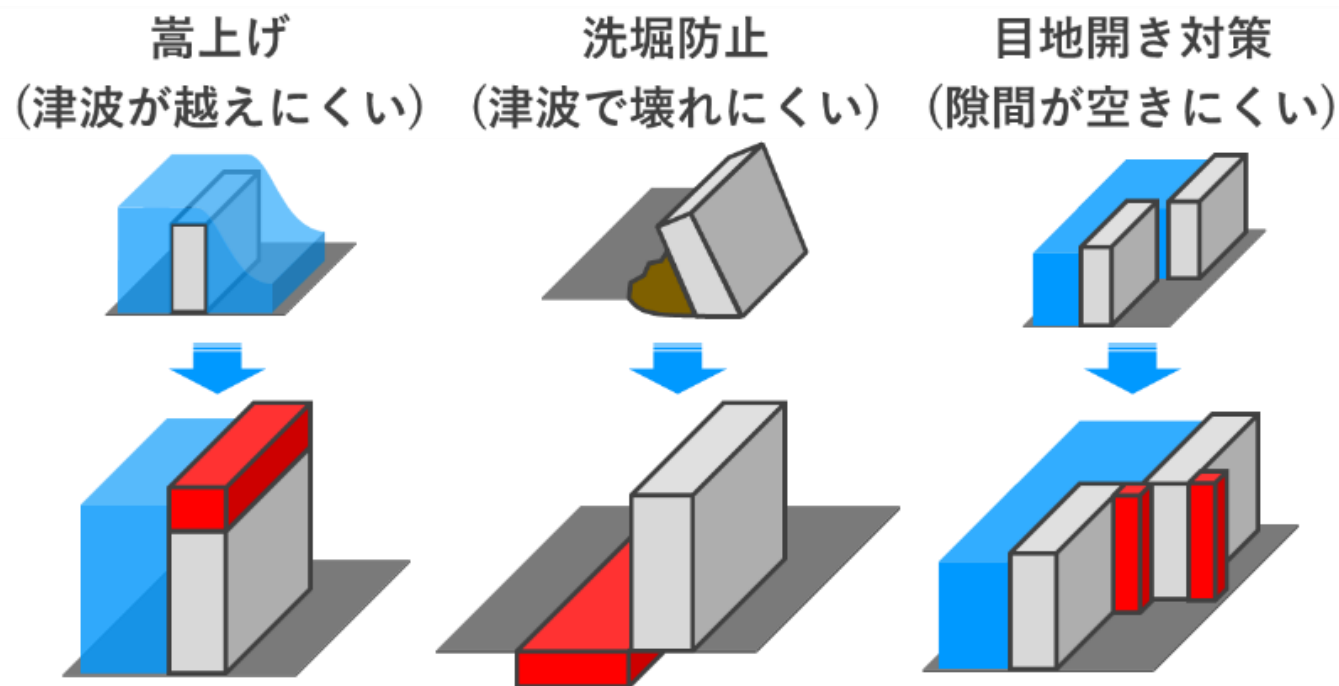
2. 来る災害への備え

南海トラフ地震への津波対策(ねばり強い構造の防潮堤)

レベル2津波

(概ね1000年に一度程度の発生するマグニチュード9クラスの地震で発生する津波)

- 防潮堤をねばり強い構造に補強
- 令和4年度(2022年度)に完了



2. 来る災害への備え

南海トラフ地震への津波対策(ねばり強い構造の防潮堤)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



嵩上げ



新港突堤

目地開き対策



新港突堤

洗堀防止

2. 来る災害への備え 広域幹線道路ネットワーク

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

第二神明道路（明石西～伊川谷）
年間約1,000回の渋滞が発生

阪神高速3号神戸線（主に京橋～摩耶周辺）
全国の都市高速道路でワースト1位

大阪湾岸道路西伸部（9期）

六甲アイランド北～駒栄

神戸西バイパス

未整備 4車線
(神戸西バイパス)
4車線
(第二神明道路)

8車線
(第二神明道路北線)
(第二神明道路)

4車線
(阪神高速道路神戸線)
未整備 6車線
(大阪湾岸道路西伸部)

10車線
(阪神高速道路神戸線)
(阪神高速道路湾岸線)



2. 来る災害への備え

広域幹線道路ネットワーク(大阪湾岸道路西伸部)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

概要

事業主体：国土交通省、阪神高速道路(株)

延長：約 14.5 km

事業費：約6,740億円

事業開始：平成28年 事業化



2. 来る災害への備え

広域幹線道路ネットワーク(神戸西バイパス)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



【事業中区間】

事業主体：国土交通省、NEXCO西日本
事業費：1,150億円

令和5年度から全線で工事が本格化

目次

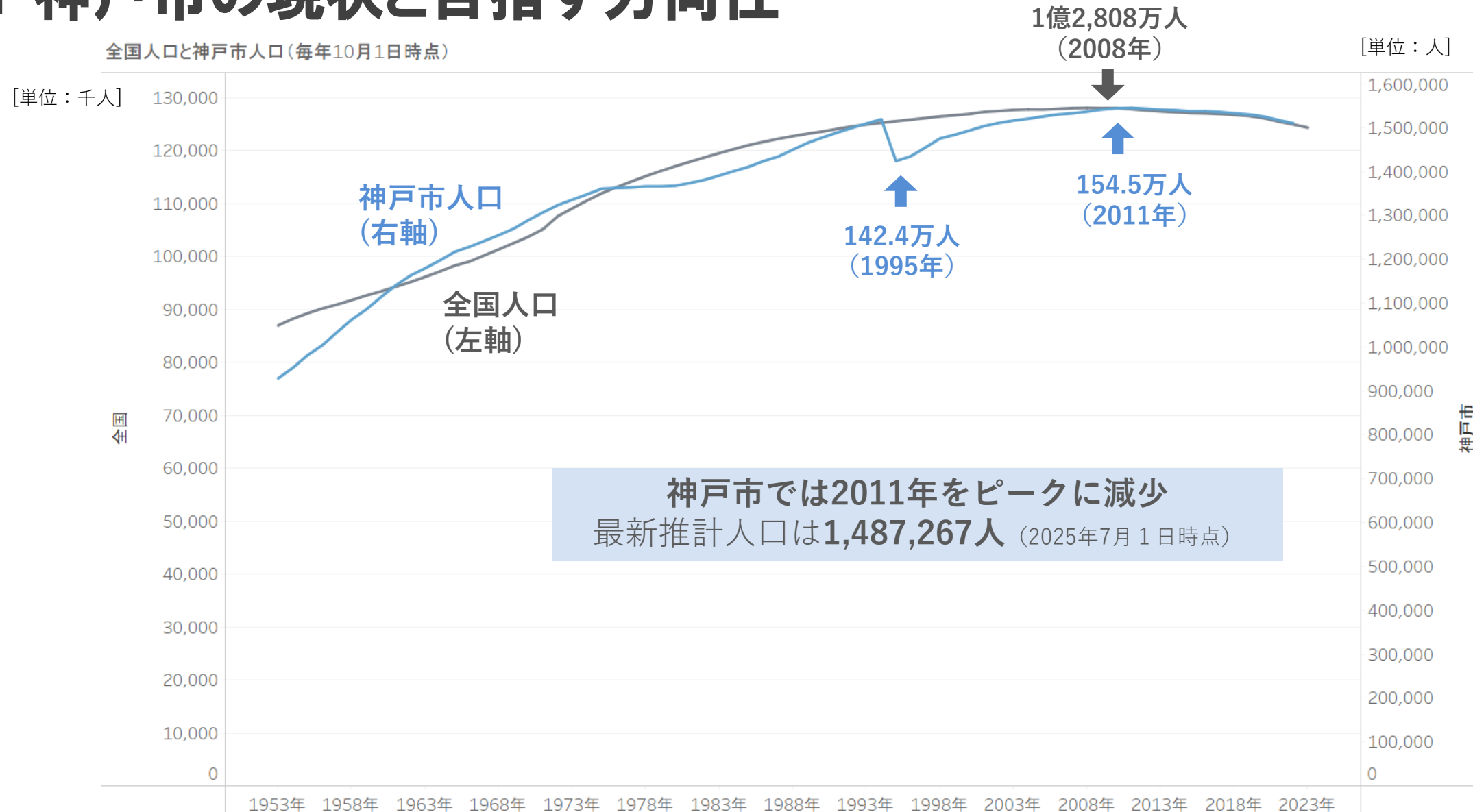
1. 阪神・淡路大震災の教訓

2. 来る災害への備え

3. 未来に向けたまちづくり

3. 未来に向けたまちづくり

神戸市の現状と目指す方向性



3. 未来に向けたまちづくり

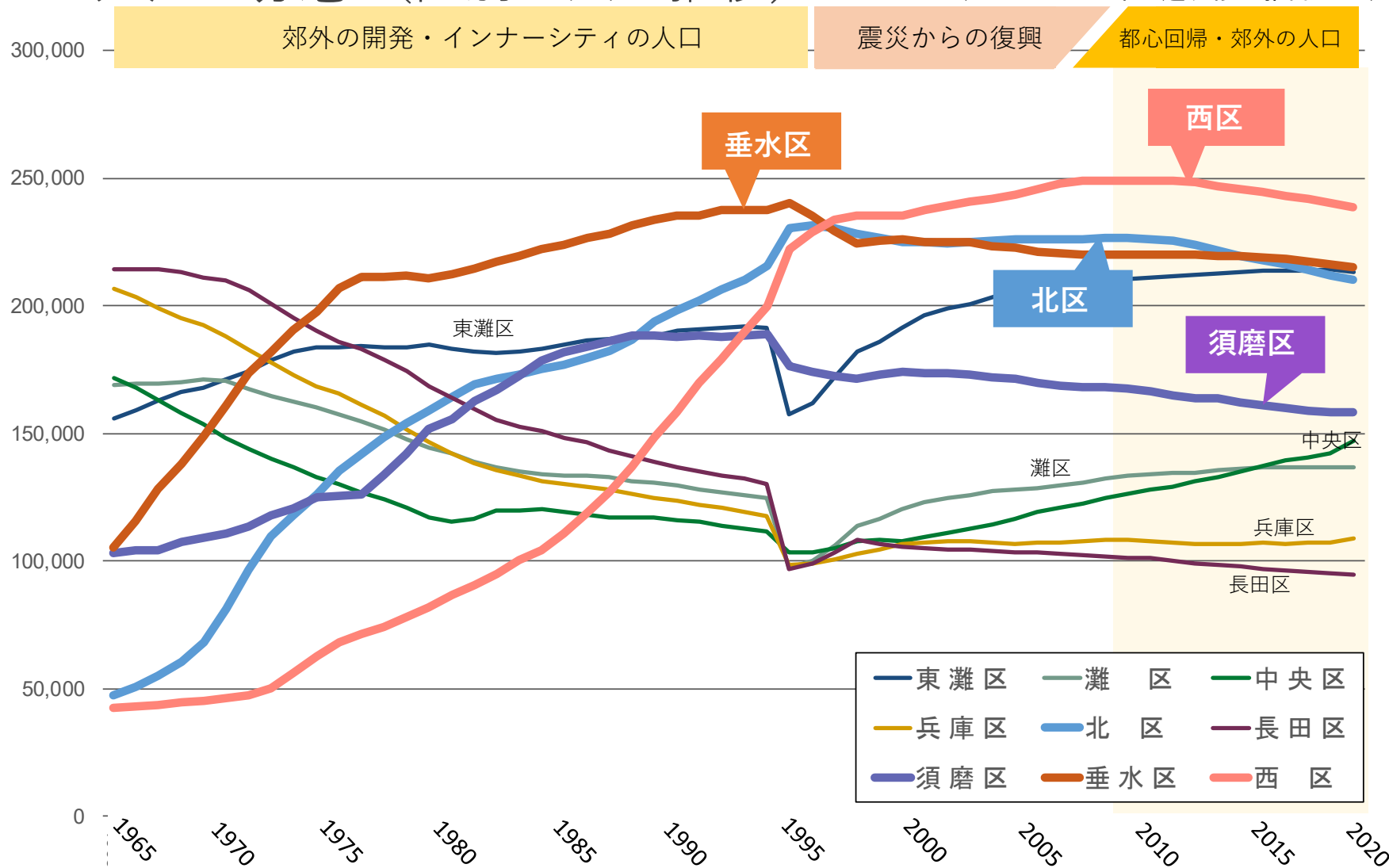
神戸市の現状と目指す方向性

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

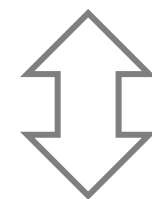
神戸市の人口動態（区別の人口推移）

※1965、70、75、80、85、90、95、2000、2005、2010、2015、2020年の人口は国勢調査による。1998年は被災地人口実態調査、1996、97、99年、2001～2004年、2006～2009、2011～2014年は遡及修正推計人口、その他の年は推計人口。

(人)



郊外が
減少傾向



中央区、
東灘区では
増加傾向

3. 未来に向けたまちづくり 神戸市が目指す都市

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

市域全体でバランスのとれたまちづくり

都心部

- ・ 神戸全体のまちや経済を活性化
- ・ 国際競争力の向上



都心・ウォーターフロントの再整備

既成市街地・郊外

- ・ 人口減少や都心回帰の動きへの対応
- ・ 都市ブランドの向上、人口誘引



駅周辺のリノベーション

3. 未来に向けたまちづくり

都心ウォーターフロントの再整備

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

神戸三宮阪急ビル



サンキタ通り



JR三ノ宮新駅ビル



三宮クロススクエア



都心・WF・周辺の回遊性向上



雲井通5丁目地区
(新バスターミナル1期)



市役所本庁舎2号館



※令和6年1月時点

中央区役所・
中央区文化センター

新港突堤西地区再開発



新港第1突堤基部



新港第2突堤

東遊園地再整備



北側エリア

税関線再整備



3. 未来に向けたまちづくり

都心・三宮の再整備(阪急神戸三宮駅北側エリアの再整備)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



2021年4月26日 開業

神戸三宮阪急ビル

サンキタ通り
(歩行者中心の空間へ再整備)

2022年9月15日 供用開始

大型ビジョン
(新たな情報発信拠点)

2022年10月 供用開始

デジタルサイネージ
(新たな情報発信拠点)

2021年10月2日 供用開始

サンキタ広場
(コンペ案をもとに再整備)

交差点改良
(広場拡幅)
(横断歩道のコンパクト化)

3. 未来に向けたまちづくり 都心・三宮の再整備(サンキタ通り)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



・ 2022年度グッドデザイン賞
(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)



・ 2023年度都市景観大賞「都市空間部門」特別賞
(主催：「都市景観の日」実行委員会)

・ 2023年土木学会デザイン賞 優秀賞
(主催：公益社団法人土木学会景観・デザイン委員会)

サンキタ通り、サンキタ広場を含めた
阪急神戸三宮駅周辺地区において
3つの賞を受賞

3. 未来に向けたまちづくり 都心・三宮の再整備(サンキタ広場)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

After



Before



3. 未来に向けたまちづくり 都心・三宮の再整備（JR三ノ宮新駅ビル開発）

2022年3月30日 JR西日本発表



BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

用 途	商業、オフィス、ホテル
動 線 ・ 空 間	周辺との接続、 乗換動線の整備 待合・イベント空間の整備
総 事 業 費	約500億円
延 床 面 積	約91,500㎡
階 数	地下2階、地上30階、塔屋2階
高 さ	約155m
着 工 予 定	2023年度
開 業 予 定	2029年度

パースはイメージであり、今後の設計及び関係機関との協議により変更となる場合があります

3. 未来に向けたまちづくり

都心・三宮の再整備(三宮クロススクエア)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

【三宮駅前の課題】

- ・ 人のための滞留空間が不足
- ・ 幹線道路（中央幹線）による駅とまちの分断
- ・ 幹線道路で約半数を占める都心に用事のない通過交通



【対応策】



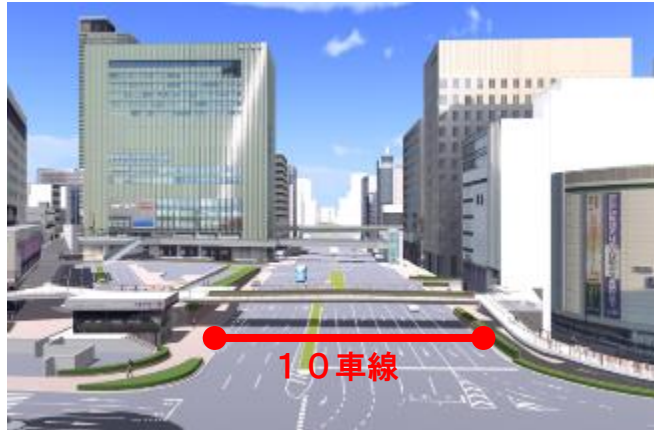
三宮クロススクエア

- ・ 駅前の空間を車中心から人中心に段階的に転換し、えきとまちのつながりを強化
- ・ 周辺の建築物と一体となって、神戸の玄関口にふさわしい象徴となる空間を創出
- ・ 緊急車両や高齢者・障がい者等の駅へのアクセスなどに必要な車線を確保

3. 未来に向けたまちづくり 都心・三宮の再整備(三宮クロススクエア)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

現況



※東側から整備

第1段階

2029年度目標
(JR新駅ビル開業と同時期)



第2段階

(大阪湾岸道路西伸部供用後)



3. 未来に向けたまちづくり

都心・三宮の再整備(三宮クロススクエア東側・空間イメージ)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

交通結節機能とにぎわい空間が融合した神戸三宮の「まち」へのエントランス空間

JR新駅ビルとの一体的なにぎわい

緑陰のある心地よい滞留空間

水や花・緑などのうるおいある空間

自転車走行空間の確保

三宮クロススクエア（東側・第1段階）のイメージ

2029年度JR新駅ビル開業に合わせて整備予定

イメージであり、今後の設計及び関係機関との協議により変更となる場合があります

都心・三宮の再整備（新たな中・長距離バスターミナル整備）

西日本最大級の中・長距離バスターミナルを整備

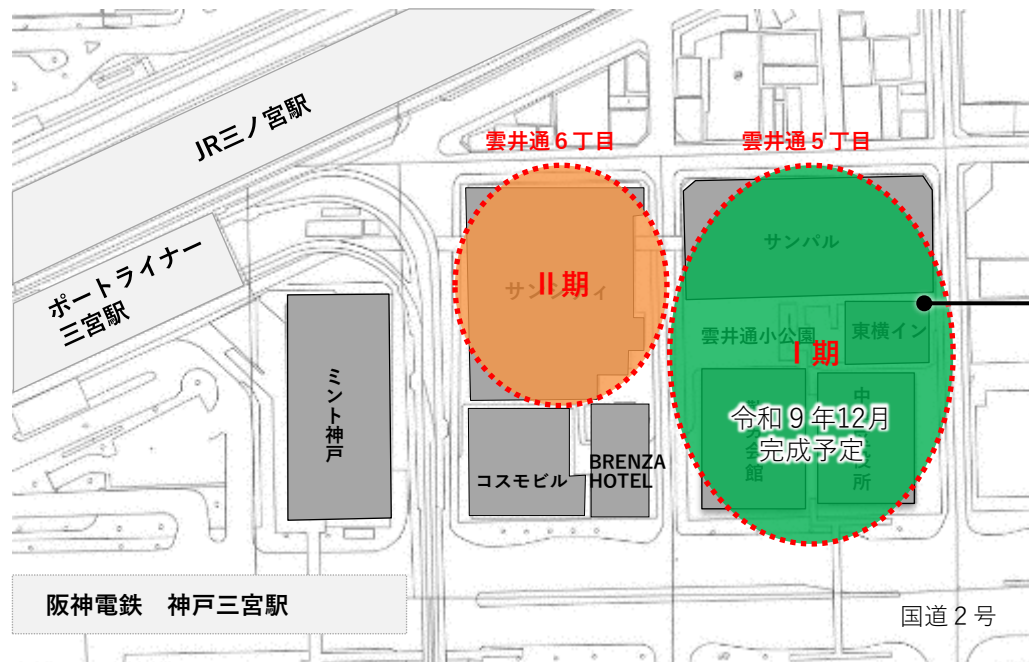
三宮駅周辺に点在する約**1,700**便を
新バスターミナルに集約



3. 未来に向けたまちづくり

都心・三宮の再整備（新たなバスターミナルが入る再開発ビル整備）

<再整備ブロック分けイメージ>



<雲井通5・6丁目再開発事業想定概略スケジュール>

	R5年度 (2023年度)	R6～R8年度 (2024～2026年度)	R9年度 (2027年度)
雲井通5(Ⅰ期)	▼ R5.7 新築工事着手	解体工事・新築工事	R9.12 完成予定
雲井通6(Ⅱ期)	R5.7 準備組合設立 ▲ R5.12 事業協力者選定	計画検討／都市計画・事業認可手続き等	工事着手

※あくまで現時点の想定であり、スケジュールは変更になる可能性があります。

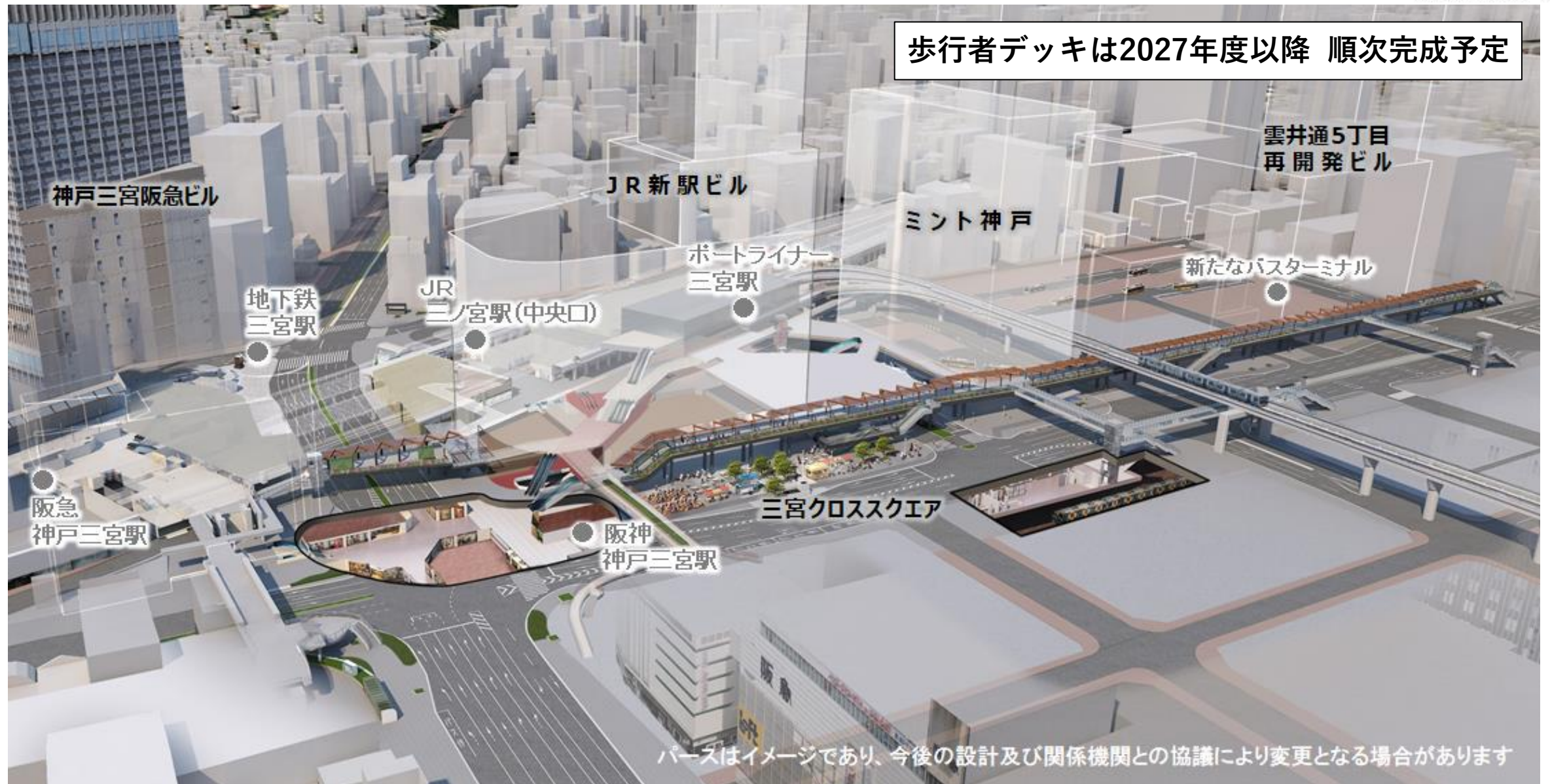


屋外歩廊空間イメージ（Ⅰ期南東より）

※これらのパースはイメージです

3. 未来に向けたまちづくり 都心・三宮の再整備(乗り換え動線の強化)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



3. 未来に向けたまちづくり 都心・三宮の再整備(駅周辺デッキ整備)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

○デッキ設計競技（コンペ）の実施（2020年10月～2021年5月）

最優秀提案者：中央復建コンサルタンツ(株), (株)安井建築設計事務所, ジェイアール西日本コンサルタンツ(株)

デザインコンセプト：えきとまちをつなぐ人にやさしいデッキ



3. 未来に向けたまちづくり 都心・三宮の再整備(税関線の再整備)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

2025年度以降順次工事



【税関線の整備】

樹木の列植や歩道照明、生田川の記憶を継承する「流れ」のイメージを表現した歩道部舗装等により、統一感のある魅力的な景観を創出。

【スケジュール】

2022年度～：税関線(国際会館前～税関本庁前交差点)の設計

2025年度～：税関線の工事着手

3. 未来に向けたまちづくり

都心・三宮の再整備(税関前歩道橋のリニューアル)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



3. 未来に向けたまちづくり

都心ウォーターフロントの再整備(神戸ウォーターフロントグランドデザイン)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



ウォーターフロントの将来イメージ 2040年頃 KOBE WATERFRONT REGENERATION



3. 未来に向けたまちづくり

都心ウォーターフロントの再整備(新港突堤西地区の再開発)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



劇場型アクアリウム
2021年10月オープン



神戸ポートタワー
2024年4月26日リニューアルオープン



GLION ARENA KOBE
2025年春 オープン予定

3. 未来に向けたまちづくり

都心ウォーターフロントの再整備(マリーナ等の整備)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



リゾート気分を味わえる空間へ
(水域を活用したマリーナと親水空間の整備)

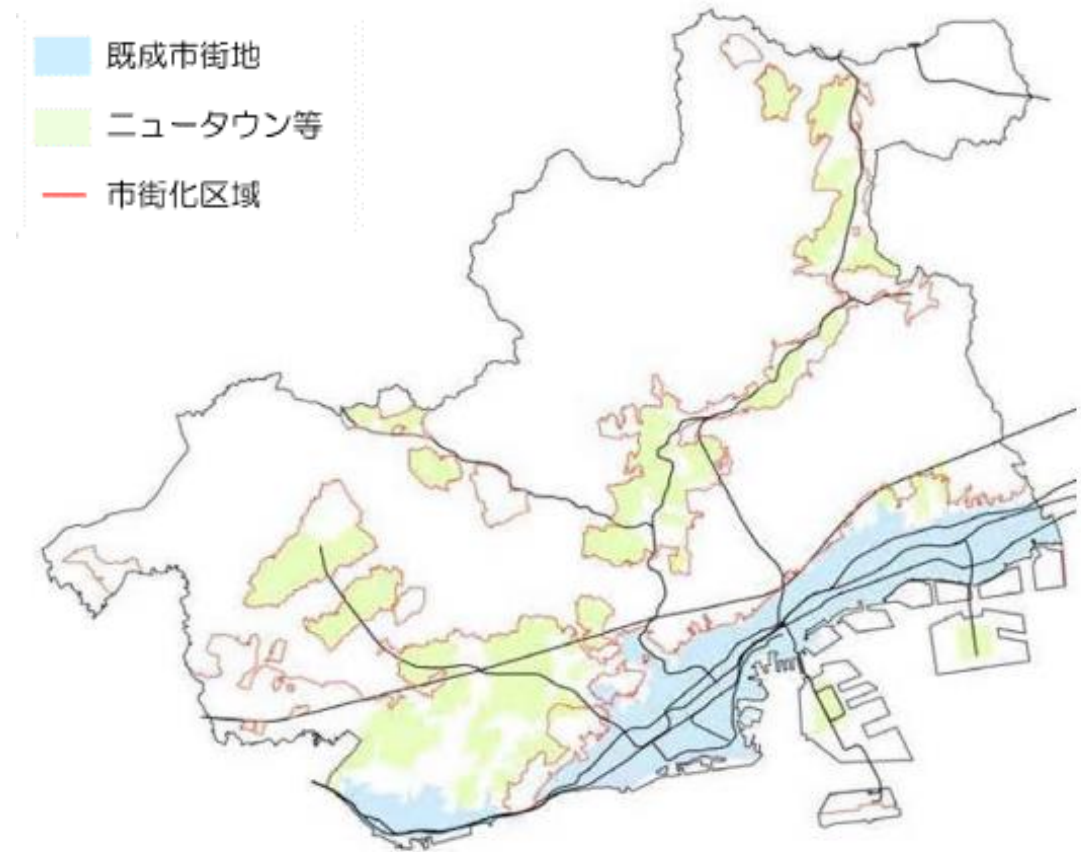
3. 未来に向けたまちづくり 駅周辺のリノベーション

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

- 神戸市の都市構造は、鉄道網に沿ってまちが展開しているため、持続可能な都市経営を行っていくためには、駅を中心としたまちづくりが重要。

「駅」

地域の佇まいや
雰囲気印象づける
「顔」となる重要な空間



※神戸市都市空間向上計画

3. 未来に向けたまちづくり

神戸市の現状と目指す方向性

駅前広場のリニューアル
照明のライトアップ
滞留空間の創出

業務・商業機能の充実
行政機能の充実
文化・子育て環境の充実

駅周辺の住機能の強化

賑わいの創出



都市ブランドの向上
人口誘引へ

3. 未来に向けたまちづくり 駅周辺のリノベーション

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

駅周辺のリノベーションに取り組む駅

- 交流人口の増加を目指す
- 定住人口の増加を目指す
- 地域の特性を活かす

西神中央駅



名谷駅



垂水駅



鈴蘭台駅



大池駅



花山駅



神戸駅

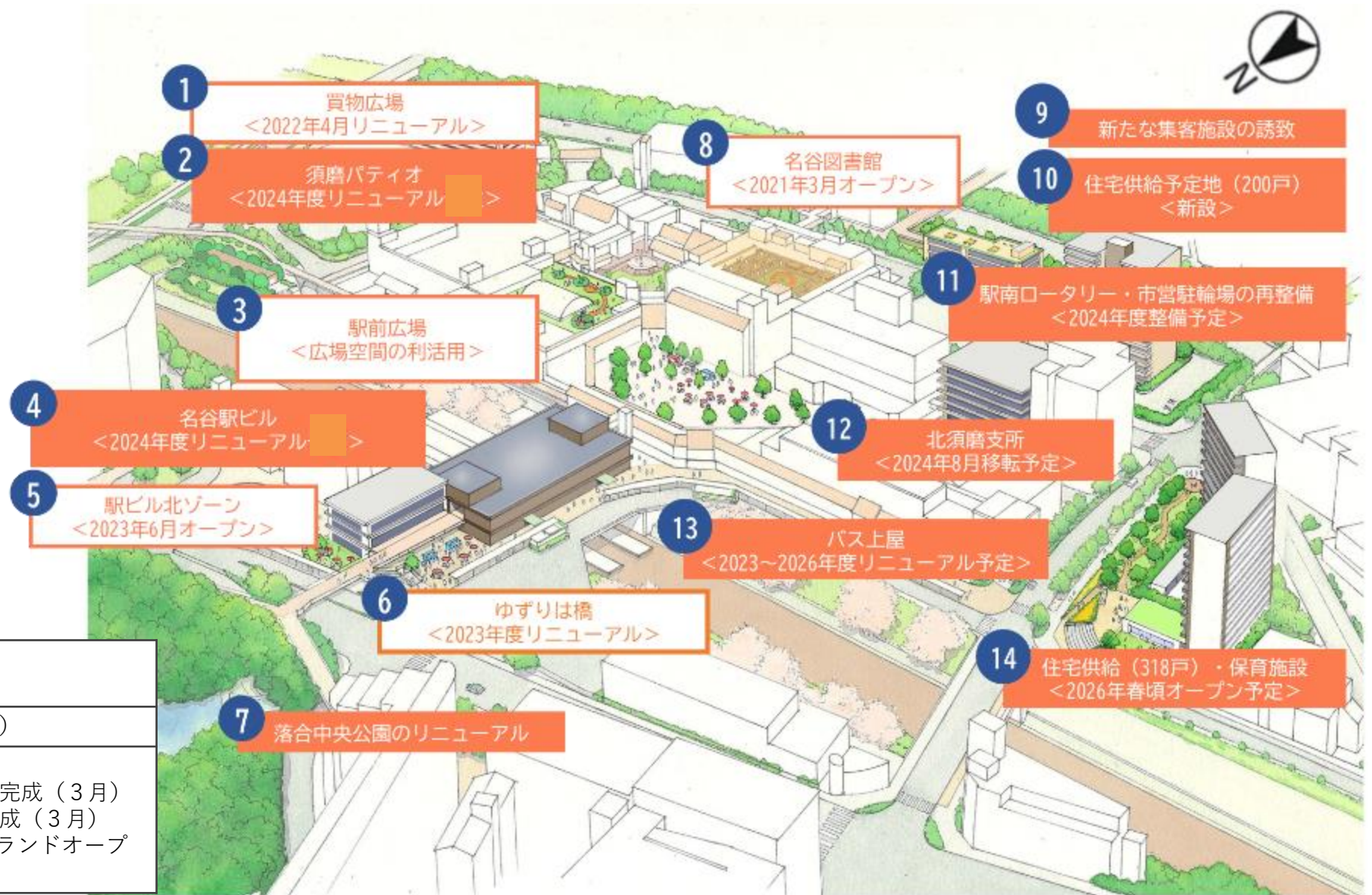


3. 未来に向けたまちづくり 駅周辺のリノベーション(名谷駅)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

名谷駅

躍動する
多世代共生の
まちへ



2020年度	駅前広場の利活用(1月~) 名谷図書館オープン(3月)
2022年度	買物広場リニューアル(4月)
2024年度	北須磨支所移転(8月) 駅ビル南ゾーンリニューアル完成(3月) 須磨パティオリニューアル完成(3月) 駅ビル「tete名谷」が全館グランドオープン(3月)

3. 未来に向けたまちづくり 駅周辺のリノベーション(名谷駅)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



8

▲名谷図書館（大丸須磨店4階）
（2021年3月オープン）



12

▲北須磨支所2024年8月完成

1



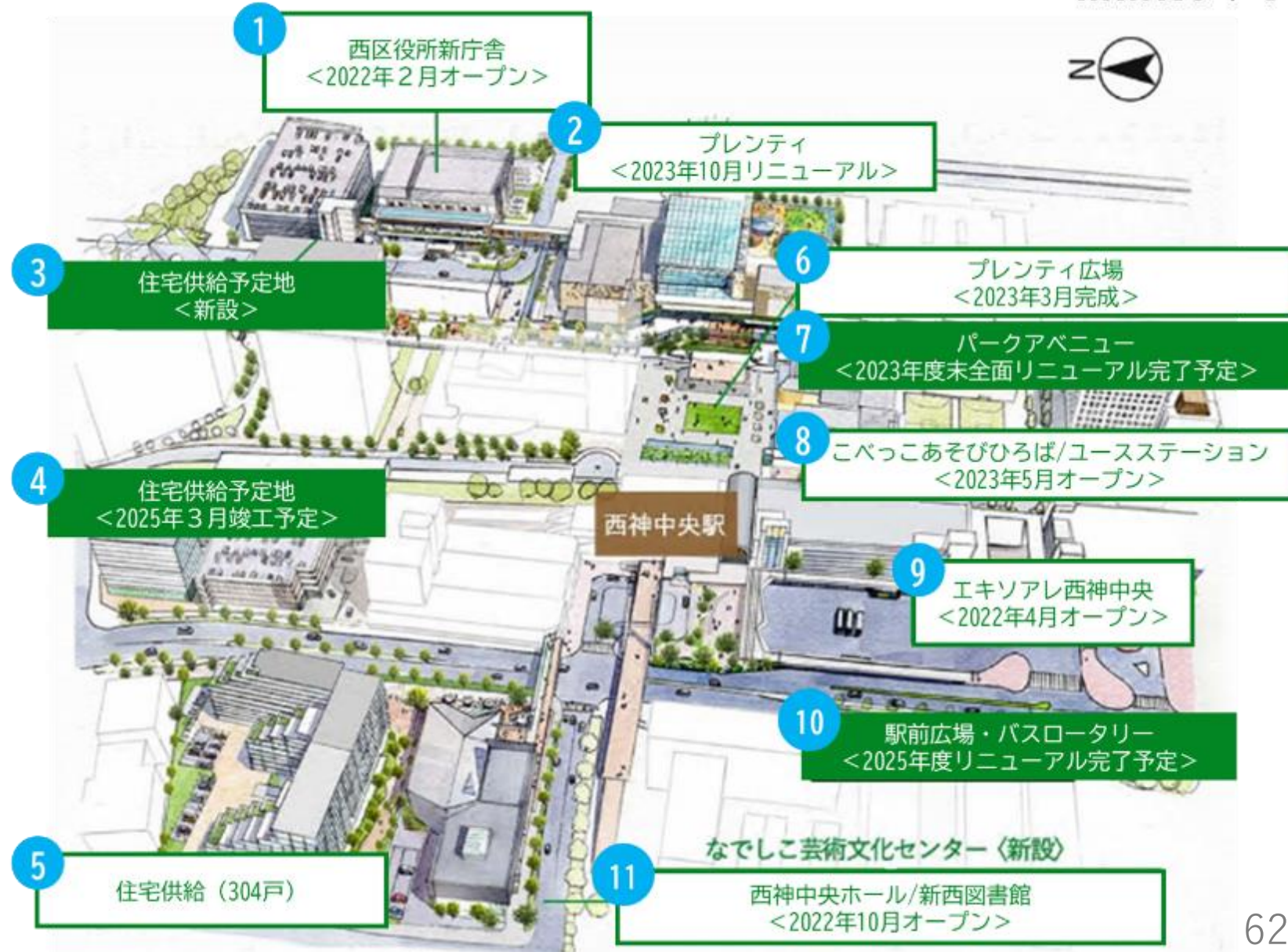
▲買物広場
（2022年4月オープン）

3. 未来に向けたまちづくり 駅周辺のリノベーション(西神中央駅)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

西神中央駅

進化する
上質なまち



2021年度	西区役所新庁舎オープン (2月)
2022年度	エキソアレ西神中央オープン (4月) なでしこ芸術文化センターオープン (10月) (西神中央ホール/新西図書館) プレんティ広場リニューアル (3月)
2023年度	こべっこあそびひろば/ユースステーションオープン (5月) プレんティリニューアルオープン (10月) パークアベニューリニューアル予定 (3月)
2025年度	駅前広場・バスロータリーリニューアル予定

3. 未来に向けたまちづくり 駅周辺のリノベーション(西神中央駅)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ



1

▲西区役所新庁舎 (2022年2月オープン)



6

▲プレんティ広場リニューアル
(2023年3月完成)



11

▲なでしこ芸術文化センター
(2022年10月オープン)



3. 未来に向けたまちづくり 駅周辺のリノベーション(垂水駅)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

垂水駅

生まれ変わる
海辺のまち



3. 未来に向けたまちづくり 駅周辺のリノベーション(垂水駅)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

4



▲垂水図書館のリニューアル
(2025年9月オープン予定)

5



▲垂水体育館のリニューアル
(2022年4月オープン)



6



◀西側ロータリー
・立体原付駐車場の再整備
(2024年2月オープン)



3. 未来に向けたまちづくり 駅周辺のリノベーション(神戸駅)

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

神戸駅 「駅前広場がつなぐ、人とまち。～神戸“湊”劇場～」



3. 未来に向けたまちづくり

森の未来都市 神戸

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

森林・里山の再生



まちの緑化



グローバルな課題 **地球温暖化の阻止、温暖化ガス排出削減**
→ 具体策として「**都市の緑化**」「**自然災害に強い都市**」への志向進む

神戸市の強み①六甲山と里山・田園を有する、②大震災からの復興の経験

森の未来都市神戸推進本部の方針

自然環境と有利な立地を生かし、市街地から農村部を一体化した
取り組みを進める → 国際都市としてのブランド力を高める

3. 未来に向けたまちづくり

森の未来都市 神戸

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

神戸市で広葉樹林業は可能

家具・床材

住宅地・田畑の周囲から良質材を伐出

- * 繁茂や事故が気になる住民が賛同
- * 伐採して利用者とマッチング中

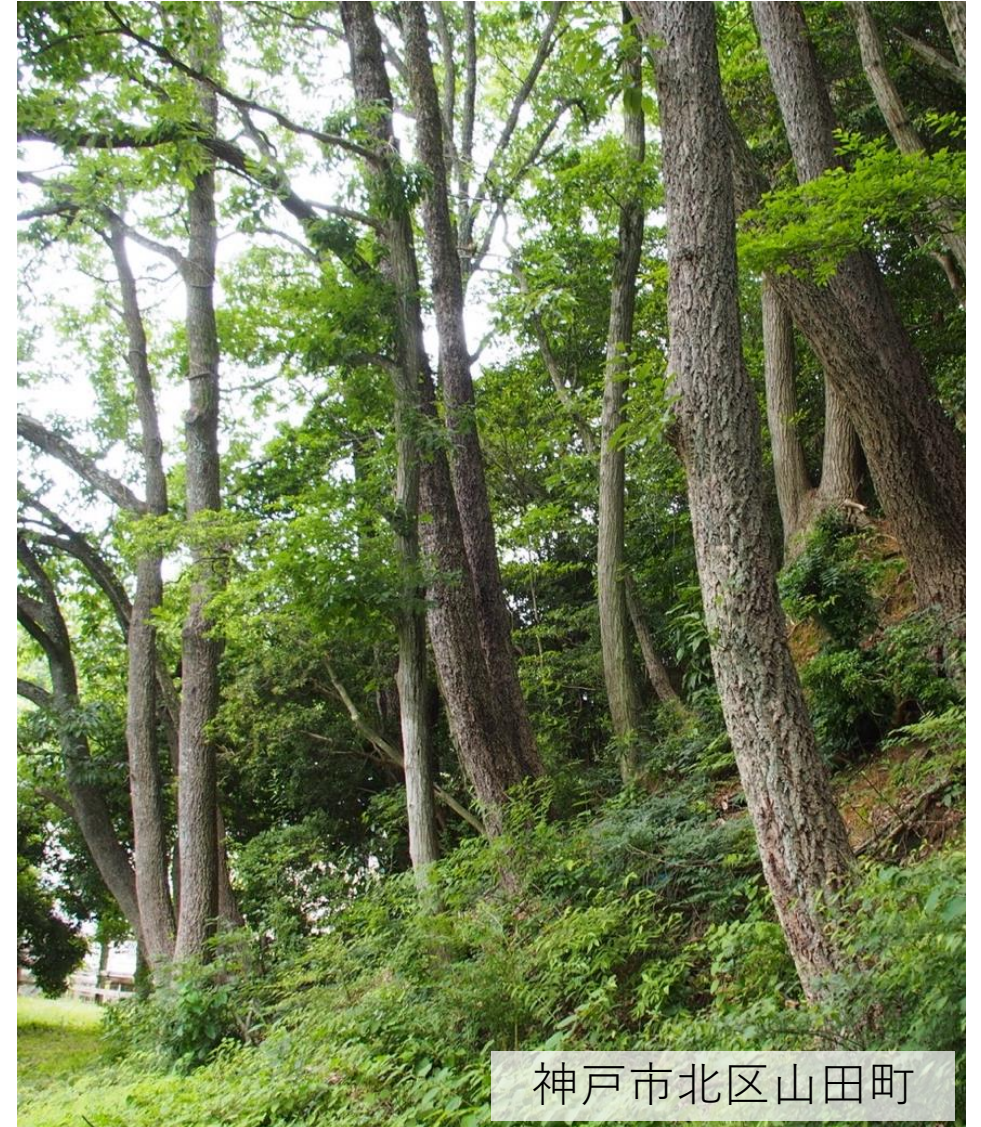


神戸市役所ロビー：六甲山の木



付加価値の高い備長炭

- ※ 6トンのカシで試し焼き
- 神戸市で生産の検討



神戸市北区山田町

3. 未来に向けたまちづくり

森の未来都市 神戸（神戸が目指すまちの緑化）

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

市街地は
メリハリの効いた緑化

海岸沿いと人工
島には木陰を

グローバルな観点で、
都市の価値向上へ

3. 未来に向けたまちづくり 森の未来都市 神戸

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

Nature based Solution
(NbS)のためには
循環型経済の復活が必要
サーキュラーエコノミー

里山・六甲山樹木の
蒸散効果(気化熱)

市街地の炎
暑の緩和

海岸沿い
には木陰を

資源の循環利用に
よる里山保全効果

良好な住環境
と災害防止

都市の価
値向上へ

(例)
観光資源の
開発

移住者の
呼び込み

農村地域
の収入増加

住民・企業など多様
な主体がサポート

3. 未来に向けたまちづくり ポートアイランド・リボーンプロジェクト

BE KOBE
震災30年を
未来につなぐ

PORT ISLAND Reborn PROJECT CROSS TALK

神戸市長
久元 喜造

東京藝術大学准教授／RFA主宰
藤村 龍至

PROFILE

1954年神戸市兵庫区生まれ。
1976年東京大学法学部卒業、同年司法官入省。
内閣府参事官、総務省選挙部長、自治行政局長などを歴任。
神戸市副市長。
2013年に神戸市長に当選、現在3期目。
2022年4月指定都市市長会会長に就任。

PROFILE

1976年東京生まれ。(父は神戸市灘区出身)
2005年より藤村龍至建築設計事務所(現 RFA)主宰。
2016年より東京藝術大学准教授。
2017年よりアーバンデザインセンター大宮(UJDCO)副センター長/ディレクター、鳩山町コミュニティ・マルシェ総合ディレクター。
建築家として公共施設等の設計に関わりながら、さいたま市、埼玉県所沢市、鳩山町、愛知県岡崎市、台東区上野などで中心市街地や駅前住宅地の活性化に関わる。神戸市では「ポートアイランドの将来像研究」をきっかけに「ポートアイランド・リボーンプロジェクト」に関わる。「神戸県政調査会」の将来像についての検討会」委員。

ポートアイランドの近未来を近過去から考える

- ・PIの基本設計時(1971)の議論の経緯をたどり、PIの都市空間の設計思想を明らかにする
- ・この50年で変化した周辺の文脈は何かを明らかにし、不適合を取り除く
- ・特に港湾の機能・産業の転換・国土全体からみたときの神戸市の立ち位置の変化に着目



山、再び海へ

みどりに覆われた「新しいPI交流コア」のイメージ



みんなであつなごう、あたらしい島へ。



ポ ー ト ア イ ラ ン ド ・ リ ボ ー ン プ ロ ジ ェ ク ト

PORT ISLAND Reborn PROJECT



ご清聴ありがとうございました

